

平成20年5月

[配布先：全組合員]

## 市場情報

### <各地区市場動向>

#### 東 北

##### 材料確保に困窮

桜前線北上中、仙台は4月中旬が見頃で、気候も三寒四温を繰り返し徐々に暖かくなって来ています。

東北の状況ですが、材料はタイトになり、歯抜けサイズも増えており在庫は減り、材料山が低くなって来ています。

母材価格は大幅に上昇し、更に値上げがある模様ですが、各メーカーとも材料枠が絞られており、物件の引き合いは有るものの、一部物件では材料枠が確保できずに、物件調整をお願いしている状況です。

客先からは価格は仕方ないが、材料を何とか確保して欲しいとの要望が日々強くなっています。

母材もスクラップも高騰している中、この先どの様に推移していくのか、先が読めなく不安な気持ちで一杯です。

一日でも早く、バランスの良い市場になって欲しいものです。

(J F E 鋼材・湊和志)

## 東 京

### 臨機応変

時節の移り変わりは早く、桜の見頃もソメイヨシノ、枝垂桜から八重桜と変わってきました。華やかな自然とは違い、鉄の世界は波乱含みの年度初めとなっております。

過去にも例のない大幅な値上げがなされ、一方でロールがつかない状況は日増しに色濃くなっています。建材シャーがメインとしている橋梁・鉄骨も同様に、納期調整を余儀なくされております。特に橋梁は溢れかえっている状態で、4Qからの持ち越し分が漸くこの1Qに入れ終わった感があります。

今上期の状況からすれば、橋梁は手堅く推移するものと思われます。一方、鉄骨は2Qまでは一服感があり、3Q以降は本格的になると予測しております。

19年度の速報ですが、全体的には波が多少あったものの18年度比17.4%増となりました。橋梁が前期比10%増と手堅く牽引し、鉄骨は30.8%と大きく伸びました。その他業種分も11.7%の伸びがあり、稼働の平均維持に大きく貢献しました。数字としてはやや満足できましたが、ロール逼迫状況下、納期調整に左右され続けては切板の即納を求められ、各社それぞれ苦労した感が残ります。

新年度は、納期調整に加え価格動向も気になる処であり、客先への転嫁が重要課題になりそうです。前途は決して平坦ではありませんが臨機応変に、地道な営業活動を心掛けていきましょう。

(青柳鋼材興業・澁谷三男)

## 東 京

### 素直な気持ち

若気の至りと笑っていただきたい。あまりにも環境・材料費・確保可能な材料量・納期に変化がありすぎてついてゆけない。昔から、業界の諸先輩方には口うるさく「その日暮らしでなく、先の先を見て(考えて)行動せよ！！」と教え諭されてきたが、今となっては直近の状況をふまえ、対処し、少し先の環境を予測し対処方法を考える。まさに朝令暮改という図式になってきたのではないだろうか？

スクラップ(冷鉄源と言わねば?)の価格も、長嶋(3)、原(8)、中畑(24)などの日本球界で活躍してきた人から、岡島(37)、イチロー(51)、松井(55)、田口(99)などのメジャーリーガーへと変化をしてきた。こじ付けではあるが、スクラップ価格も野球人の世代交代に似ている・・・日本国内環境から、ワールドワイドな環境へ！！

イチロー！松井！そして田口よ！スクラップ同様、踏みとどまってくれ！松坂、黒田、まだまだだ、君らが活躍する時代はまだまだ早すぎる！！

(困ってしまう???)

(関根床用鋼板・関根保彦)

## 東 海

### 「天気曇天であるからして、波高し」

桜も散り、若葉が眩しい季節となりましたが、先行きというものは見えないのが常のこととはいえ、溢れるほど受注があるわけでもなく、「品切れ」を「売り惜しみ」と言われ、この数ヶ月はまさに曇天状態であります。現状は言うまでもなく、先行きの厚板の益々の逼迫感が、店売り小口産機部品ユ

ユーザーには届いてなくて、寧ろ、大口ユーザーから認識されはじめたかなというところで、これから、やっと価格転嫁の段階に来たところかなと感じております。

大幅な母材値上げのなか、入荷量も絞られ、ユーザーへの対応に如何なる方策ありやと苦慮しております。

まずは、価格転嫁に努め適正利益を確保し、限られた材料の運用の効率化を図り、短納期対応を見直してでも、歩留改善(+5%)を目標に、当面は、鋼屑の出荷量を最小限に抑える努力をしなければと考えておりますが、無理かも！

(名古屋鋼業・浅野昭夫)

**市場委員会の次回開催予定**

第137回市場委員会

6月4日(水) 正午～

於 名古屋・安保ホール